

令和 5 年度

「運営に関する計画」

中間評価



大阪市立鶴見橋中学校

令和 5 年 11 月

大阪市立鶴見橋中学校 令和5年度運営に関する計画・自己評価（総括シート）

I 学校運営の中期目標

現状と課題

全国学力・学習状況調査結果等から、生徒たちは興味・関心をもって学習に取り組んでいるものの学力向上に十分結びついていない現状が見られる。日々の教育活動を通じて、より深く生徒理解に努め、基礎学力の定着・向上を図り、子どもたちが自立するために必要な力を身につけさせる必要がある。また、本校の人権教育の取組を充実させ、「いのち」や「つながり」を大切にする教育活動を展開し、自尊感情の育成に努める。それらのことを踏まえ、次の3点について学校課題として取り組む。

- ①子どもたちが自立し、将来の『社会の形成者』となるような取組
- ②『いのちの大切さ』『人と人とのつながり』を大切にする教育の取組
- ③自己実現を図る教育の取組

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を0名にする。
- 令和7年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を令和3年度と比較し減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均の割合をいずれの学年も0.8以上にする。
- 令和7年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合をいずれの学年も50%以下にする。
- 令和7年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度の生徒対象のアンケートで「教科の学習はわかる」の項目に肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、対全国の1.1倍にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を100%にする。
- 教員の勤務時間の時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下を満たす教職員の割合を50%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」に対して肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 生徒アンケートにおける「学校生活は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を40%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を50%以上にする。

学校園の年度目標

- 生徒対象の授業アンケートで「教科の学習はわかる」に対して肯定的に回答をする生徒の割合を 70%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、前年度の調査より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 授業でコンピューターなどの ICT を「毎日使用した」と答える生徒の割合を 65%以上にする。
- 教職員の時間外勤務の 45 時間以上の割合を 50%以下にする。

学校園の年度目標

- 全教科で学習者用端末を活用した研究授業を年間 1 回以上実施する。
- 全教科においてデータに基づいて PDCA サイクルを回す。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立 (学校園名) 令和5年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標Ⅰ 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標 (中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 75%以内にする。 R5 7月…82%</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。 R5 7月…84%</p> <p>○生徒アンケートにおける「学校生活は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。 R5 7月…79%</p> <p>○教職員対象の支援教育に関する校内研修を 1 回以上実施する。巡回相談での結果を共有し、個別の支援に生かす。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向Ⅰ 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○「いのちの学校」を目標に掲げ、生徒向けの授業が展開できるよう学年ごとにカリキュラムを作成し、授業力向上の研修を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。 R5 7月…84%</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向Ⅱ 豊かな心の育成】</p> <p>○自尊感情を高め、道徳心・社会性を育成するための人権に関する取組を実施する。 (人権を尊重する教育の推進)</p>	B

<p>指標</p> <p>○全校生徒参加の人権の取組を年3回以上実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>○地域の方に開かれた学校づくりに関する取組、自分たちの地域や自分たちの将来について考える取組、探求・読解プログラムを実施する。</p> <p style="text-align: right;">(地域学校協働活動の推進)</p>	B
<p>指標</p> <p>○地域の方とともにする取組を毎週1回(火・木)以上、自分たちの地域や将来について考える取組を学校全体として年3回(平和登校日・人権集会・人権作文発表会)以上実施する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○ユネスコスクールとして、学校行事をSDGsの取組に合わせて精選し、実施する。また、国際理解教育を深め、国際社会を生き抜く力を育む。</p> <p style="text-align: right;">(多文化共生教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <p>○週1回、国際理解教育と人権教育の取組の実施。</p> <p style="text-align: center;">(朝鮮問題研究会・多文化学級・同和教育・支援教育)</p> <p>○SDGsに合わせた、学校行事の実施。</p> <p style="text-align: center;">(防災学習・平和学習・環境保全・奉仕活動など)</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○支援教育に関する校内研修を年1回以上実施する。</p> <p>○支援教育の巡回指導を年1回以上活用し、個別の支援内容の共有を図る。</p> <p style="text-align: right;">(インクルーシブ教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を80%以上にする。 R5 7月…97%</p> <p>○保護者対象のアンケートの「学校は、学習のつまずきによく対処してくれている。」について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 R5 7月…88%</p>	
<p>取り組み内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○学校規模ポジティブ行動支援の考えに基づき、目ざすべき生徒像「鶴見橋中3つのT」を策定し、今年度の教育活動の基礎として位置づけ、生徒へのフィードバックを行う。</p> <p style="text-align: right;">(人権を尊重する教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートの「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答の割合を70%以上にする。 R4 7月…59% R5 7月…61%</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

健康教育部や養護教諭を中心に、「いのちの教育カリキュラム」を組み、計画通り進めている。「命や人権の尊さについて考えたことがある」のアンケートの回答については、84%であった。目標の90%には届いていないものの、しっかりと考えられている生徒が多い。

取組内容②

現時点で平和人権登校日を行い、11月に芸術鑑賞と人権集会、12月に人権作文発表会を実施する予定である。計画通りに進んでいる。

取組内容③

地域の方とともに毎週火曜日のほっとスペース、毎週木曜日のUTを計画通りに実施することができている。

取組内容④

週1回、国際理解教育と人権教育の取組を実施することができている。SDGsに合わせた学校行事の実施については、8月に平和学習、各学期に1回のごみ0運動（奉仕活動）を実施することができている。防災学習については12月に実施予定である。

取組内容⑤

2月、支援教育に関する校内研修を実施する予定である。計画通りに進んでいる。現時点で支援教育の巡回指導を5月に活用し、個別の支援内容の共有を図ることができた。

12月2日、2回目の巡回指導を活用し、個別の支援内容の共有を図る予定である。

教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」

について肯定的な回答の割合を80%以上にするについては、7月に実施した学校評価アンケートで97%という結果であった。目標とする指標の数値を上回り、計画通りに進んでいる。

取組内容⑥

目指すべき生徒像「鶴見橋中学校3つのT」を策定し、全校集会での説明、校内掲示、プリント配付を行い生徒、教職員に周知し「望ましい行動」を共通理解した。7月の生徒対象のアンケートの「自分にはよいところがあると思う」の肯定的な回答の割合は61%であった。定期テストごとの「よいとこみつけ」の取り組みを継続し、今後12月と3学期に「3つのT」の定着を目指した「Good Behaviorカード」の取り組みを行い、生徒と教職員の交流を通して、「望ましい行動」を増やし、生徒の自己肯定感を育成していく。

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 30% 以上にする。 R5 7 月…29%</p> <p>○中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 40% 以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒対象アンケートの、「教科の学習はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均を 60% 以上にする。 R5 7 月…75%</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】</p> <p>○漢検を全校で実施する。</p> <p>○KODOMO 新聞や読解力向上教材を活用し、言語能力の向上を図る。</p> <p>○ICT を活用し、自主学習の教材を充実させて、表現力や判断力の向上を図る。</p> <p>【 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】</p> <p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70% 以上にする。 R5 7 月…1 年 82%、2 年 94%、3 年 78%</p> <p>○漢検において、5 級の合格率を昨年度より向上させる</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○英語検定、GTEC を実施する。また、それらの取組の対策を実施し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>（ 英語教育の強化 ）</p> <p>指標</p> <p>○英語検定において、5 級の合格率を前年度より向上させる。</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○すべての教職員が年1回以上の研究授業を行い、相互参観、指導助言をすることで授業力向上を図り、わかりやすい授業を目指す。</p> <p style="text-align: right;">(教員の資質向上・人材の確保)</p> <p>指標</p> <p>○生徒対象アンケートの、「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均を60%以上にする。 R5 7月…75%</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○朝の学習、放課後学習に取組み、学習習慣を身につけさせ、基礎的学力を向上させる。</p> <p style="text-align: right;">(言語活動・理数教育の充実 (思考力・判断力・表現力等の育成))</p> <p>指標</p> <p>○チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定を10月に実施した。5級の合格率は、過去最低であった。(2.4%) ・現段階で、国語の授業に関するアンケートにおいては肯定的な回答が多い。 1年82%、2年94%、3年78% ・NIEや読解力向上のためのワークなどに取り組んでいる。 ・学力テストの結果は大阪市の平均よりも低いものの、ほとんどの生徒がICT機器を使いこなし、PCを使ってプレゼンテーションを作成して発表することができる。
<p>取組内容②</p> <p>9月末に英語検定、10月の中旬にGTECを実施した。GTECに関しては、まだ結果待ちである。英語検定に関しては、5級の合格率が昨年度(21%)に比べて今年度(43%)に向上した。</p>
<p>取組内容③</p> <p>二井先生の研究授業、11月の研究授業推進期間での相互参観により授業力の向上を図った。また、生徒対象アンケートの「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均は75%であった。</p>
<p>取組内容④</p> <p>R4 2年生 66% R5 3年生 59% で7割未満の生徒を減少させることができた。今後は家庭学習の習慣を育成していきたい。</p>
次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 50% 以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、前年度の調査より向上させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>○縦割りで行う球技大会をはじめとして、各学年でも体育的行事に取り組む。 (体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	B
<p>指標</p> <p>○各学年で 3 時間以上の取り組みを実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容②</p> <p>○一泊移住では、砂浜でのビーチバレー・サッカーやカッター・カヌーなど、様々な取組を実施した。(1 年)</p> <p>○体育大会に向けて、学年演技（ダンス）の練習を 3 時間以上実施した。(2 年)</p> <p>○修学旅行では、アスレチックやラフティングなど、様々な取組を実施した。(3 年)</p>	
次年度への改善点	

(様式2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <p>○授業でコンピューターなどのICTを「毎日使用した」と答える生徒の割合を65%以上にする。 R5 7月…58%</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>○教職員の時間外勤務の45時間以上の割合を50%以下にする。 R5…4月 50% 6月 50% 7月 54.2% 8月 0% 9月 48%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○全教科でICTを活用した研究授業を年間1回以上実施する。</p> <p>○全教科においてデータに基づいてPDCAサイクルを回す。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○校内研修支援事業を活用し、全教科でICTを活用した研究授業を年間1回以上実施する。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を80%以上にする。 R5 7月…97%</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○各種学力調査データを教科担当が分析し、PDCAサイクルを回す。 (データ等の根拠に基づく施策の推進(教育ビックデータの活用等))</p> <p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」について肯定的な回答の割合を75%以上にする。 R5.7月…100%</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○サポーターを組織的に活用し、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保する。 (働き方改革の推進)</p>	B

指標

○毎月の 45 時間以上の時間外勤務時間の教職員の割合を 50% 以下にする。

R5…4月 50% 6月 50% 7月 54.2% 8月 0% 9月 48%

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

すべての教科では ICT を活用した研究授業はできていないが、ほとんどの教科で活用できている。教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある」について肯定的回答の割合は 97 % であった。

取組内容②

各教科の学習指導やスクーリングシートを通しての生徒・保護者・地域の状況を把握など、データを通して指導が改善されている。

取組内容③

学力向上支援センター 5 名、スクールサポートスタッフ 1 名、特別支援教育センター 2 名、部活動支援員 2 名を配置し、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保できるよう工夫している。

次年度への改善点

大阪市立鶴見橋中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった		B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容【各教科】 【国語】 ○漢検を全校で実施する。 ○OKODOMO 新聞や読解力向上教材を活用し、言語能力の向上を図る。 ○ICT を活用し、自主学習の教材を充実させて、表現力や判断力の向上を図る。 指標 ○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 ○漢検において、5級の合格率を昨年度より向上させる(昨年度19%)。		B
【社会】 ○ICT を活用し、多くの資料を提示することで理解しやすい授業を行う。 ○授業の最初に「最近のニュース」の動画を流し、世界や日本の出来事に対する興味関心を向上させる。 指標 ○生徒対象のアンケートで「社会の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。		B
【数学】 ○ICT を活用し、数学への興味・関心を高める。 ○基本的事項の習得に向けて、プリントなどを活用し反復して演習を行う。 指標 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業はわかる」に対する肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。		B
【理科】 ○実験や観察などの体験的な授業を積極的に行い、基礎知識や実験技能の向上を図る。 ○スライドやデジタル教科書などの視覚教材を活用し、基礎知識の向上を図る。 ○夏の自由研究やパソコンを用いた調べ学習など学習を深める取り組みを行い、思考力や判断力、表現力の向上を図る。 指標 ○生徒対象のアンケートで「理科の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。		B

<p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用し、音楽に対する興味・関心・意欲を高める。 ○楽曲理解を深める活動を行うことで、個々の思考力・判断力を育て、考えたことが表現力を高めることに繋がる授業計画を実施する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心の向上に対する肯定的な回答を75%以上にする。 ○生徒対象のアンケートで「音楽の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。 	B
<p>【美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループワークや発表の機会を設け、主体的・対話的な授業をめざす。 ○単元ごとに冊子を作り、授業の進行具合を明確にして、生徒の興味・関心を高め、美術活動に対する意欲を伸ばす。また、提出率を80%以上にする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各单元に於いて自己評価を充実させて、言語能力を高めていく。 ○授業アンケートの「授業を受けて、その内容に興味関心や意欲をもつようになっていますか」の項目にて、「そう思う」「大体そう思う」の割合を80%以上にする。 	B
<p>【保健体育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体つくり運動を体育の授業で毎時間、継続的に取り組むことで、基礎体力の向上を図る。 ○週に1回以上、試合で仲間と共に考え、協力して取り組める機会を作る。 ○生徒が安全に取り組めるように、準備運動を毎時間徹底し、学習環境の整備をする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心・意欲の向上に対する肯定的な回答を70%以上にする。 ○「授業の内容が分かるようになっていますか」に対する肯定的な回答を70%以上にする。 	B
<p>【技術家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルや情報リテラシーについて取り組む。 ○家庭生活の衣食住について興味を持ち、家族と話せるように取り組む。 ○SDGsのエネルギー分野での知識を深める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「授業内容が分かる」の回答を60%以上にする。 	B
<p>【英語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業において【復習→めあて→本時の学習→振り返り】の流れを固定し、生徒が安心して授業に取り組むことができるよう工夫する。 ○C-NETを活用し、生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、工夫する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートにおいて「英語の授業はわかる」の回答を60%以上にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定を10月に実施した。5級の合格率は、過去最低であった。(2.4%) 現段階で、国語の授業に関するアンケートにおいては肯定的な回答が多い。1年82%、2年94%、3年78% 学力テストの結果は大阪市の平均よりも低いものの、ほとんどの生徒がICT機器を使いこなし、PCを使ってプレゼンテーションを作成して発表することができる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの授業でICTを活用する授業ができている。 ニュース動画等で社会に関する興味関心を持たせることができている。 1学期末に実施するアンケートでは「社会の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は77%であった。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末に実施するアンケートでは「数学の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は67%であった。また、「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合は70%であった。 基本的な問題を反復して取り組むことで、基礎学力の定着を図っている。また、授業の最初に確認テストを行い、生徒の理解度の確認を確認している。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験を積極的に行えている。 生徒が現象を理解しやすいよう、デジタル教科書や動画を活用し、視覚的に見せることができた。 夏休みの課題として、自由研究に取り組ませた。 1学期末に実施したアンケートでは、「理科の授業がわかる」に対して肯定的に回答した生徒の割合は77%であった。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末に実施するアンケートでは「音楽の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は76%であった。また、「音楽の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合は86%であった。 歌詞を電子黒板で出したり、鑑賞の時に映像を流したりとICTを取り入れ、生徒が視覚的にわかりやすいよう授業を行っている。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 目標の一つであるグループワークの部分は時間の関係で、達成できていない。その他の目標においては、冊子で授業を進め、提出率が75%になっている。また、作品の完成した後に自己評価に取り込み、成果を上げている生徒も多くなっている。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末に実施したアンケートでは、「興味・関心・意欲向上」に関する項目では、肯定的に回答する生徒の割合は男子が93%、女子が91%であった。 また、「体育の授業はわかる」の項目において肯定的に回答する生徒の割合は、男子が93%、女子が95%であり、目標を達成できた。
技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルや情報リテラシーについて取り組めた。 家庭生活の衣食住について興味をもてるような教材や授業内容を工夫した。 SDGsのエネルギー分野でICT機器を活用し学習することができた。 1学期末に実施したアンケートでは、「授業内容が分かる」に対する肯定的に回答する生徒の割合は71%であった。
英語	<ul style="list-style-type: none"> GTECを10月に実施し、結果を待っている。 英検を10月に実施し、合格率が3級：80%、4級：60%、5級：44%であった。特に5級の合格率が昨年度に比べ、大幅に向上した（昨年度21%）